【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成25年9月26日(2013.9.26)

【公開番号】特開2013-140591(P2013-140591A)
【公開日】平成25年7月18日(2013.7.18)
【年通号数】公開・登録公報2013-038
【出願番号】特願2012-287933(P2012-287933)
【国際特許分類】
Ｇ０８Ｂ　5/36　(2006.01)
Ｇ０８Ｂ　23/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０８Ｂ　5/36　Ｊ
Ｇ０８Ｂ　23/00　５１０Ｅ
Ｇ０８Ｂ　23/00　５２０

【手続補正書】
【提出日】平成25年8月2日(2013.8.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
技術的装置の少なくとも一つの動作状態を視覚的に表示するための警告灯コラムであって、少なくとも一つの警告ユニットを有し、前記警告ユニットは、構成要素として、少なくとも一つの警告灯要素、発光ダイオードおよび警告音発生器のうちの一つ以上を含んでおり、保持装置が、前記警告灯コラムの縦軸方向において前記警告ユニットに続いて配置され、前記警告ユニットは、前記構成要素を覆うためのチューブ要素として実質的に形成された少なくとも１つのシース要素を有しており、前記保持装置と前記警告ユニットの前記シース要素とは、可視光に対して透明なコラム要素として形成されることを特徴とする警告灯コラム。
【請求項２】
前記警告灯コラムは、実質的に、前記シース要素および前記保持装置に広がる連続した、均一のシェルを有することを特徴とする請求項１記載の警告灯コラム。
【請求項３】
技術的装置の少なくとも一つの動作状態を視覚的に表示するための警告灯コラムであって、少なくとも一つの警告ユニットを有し、前記警告ユニットは、構成要素として、少なくとも一つの警告灯要素、発光ダイオードおよび警告音発生器のうちの一つ以上を含んでおり、保持装置が、前記警告灯コラムの縦軸方向において前記警告ユニットに続いて配置され、前記警告ユニットは、前記構成要素を覆うためのチューブ要素として実質的に形成された少なくとも１つのシース要素を有しており、前記警告灯コラムは、実質的に、前記シース要素および前記保持装置に広がる連続した、均一のシェルを有することを特徴とする警告灯コラム。
【請求項４】
前記保持装置は、前記警告ユニットの前記シース要素のようなチューブ要素から実質的に形成され、前記保持装置の前記チューブ要素は、前記警告灯コラムの縦軸方向に見た場合、前記シース要素の前記チューブ要素とは長さが異なることを特徴とする請求項１～請求項３のいずれか一項に記載の警告灯コラム。

【請求項５】
前記シース要素および前記保持装置の前記シェルは、実質的に同じ外径を有することを特徴とする請求項２または請求項３に記載の警告灯コラム。
【請求項６】
前記シース要素および前記保持装置の前記チューブ要素は、実質的に同じ外径を有することを特徴とする請求項４に記載の警告灯コラム。
【請求項７】
前記保持装置および前記警告ユニットの前記シース要素が、無色明澄なチューブ要素として形成されることを特徴とする請求項１～請求項６のいずれか一項に記載の警告灯コラム。
【請求項８】
前記警告ユニットおよび前記保持装置の少なくとも一つが、電力および電気信号の少なくとも一方を伝導するための少なくとも１つの導体を持つことを特徴とする請求項１～請求項７のいずれか一項に記載の警告灯コラム。
【請求項９】
前記導体が、光に透明な電気絶縁体および光に無色明澄な電気絶縁体の少なくとも一方に該当する電気絶縁体を少なくとも１つ有することを特徴とする請求項８に記載の警告灯コラム。
【請求項１０】
前記導体の導体断面が、０．０５ミリメートル以下であることを特徴とする請求項８または請求項９に記載の警告灯コラム。
【請求項１１】
前記導体の導体断面が、０．０１ミリメートル以下であることを特徴とする請求項８または請求項９に記載の警告灯コラム。
【請求項１２】
前記警告ユニットおよび前記シース要素の少なくとも一方を、前記保持装置、更なる警告ユニット、更なるシース要素およびカバー要素の少なくとも一つに接続するために、接着剤が設けられていることを特徴とする請求項１～請求項１１のいずれか一項に記載の警告灯コラム。
【請求項１３】
前記技術的装置は、機械、プラントおよび自動車のいずれかであることを特徴とする請求項１～請求項１２のいずれか一項に記載の警告灯コラム。